

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ほりごめよしひろ		
堀篁義裕			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	うさみせいじ	岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
宇佐美誠史			
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	IWKa-141101-0	6 人 (実習全体では 18 人)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など; テーマ設定から報告書の作成までを全学生が行った。本実習を通じて、調査を企画し、データを集めることの意義について、座学の講義よりも理解が深まったものと思われる。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域: 文系学生の留学に対する意識調査—岩手県立大学生を事例として—

2. 調査の内容/概要: 「留学離れ」の背景を学生の意識の面から調査した。先行研究は、対象者が理工系学生に限られており、本調査はこの点に着目し、文系学生のみを対象とした。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入): 低年次の学生を対象とすることとした。具体的には岩手県立大学総合政策学部の1年生を対象とし、必修科目「政策学基礎」の授業時間に調査を行った。

4. 主な調査項目: 留学に対する関心、外国への渡航回数、外国人との接触頻度、国際交流イベントへの関心、外国語の勉強時間、趣味で外国語に触れる機会、外国と関わる仕事への関心、留学の阻害要因

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法: 対象科目の授業終了時に、調査員の学生が質問紙を配布し、その場で回収した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数: 2014 年 11 月 27 日 (木) ・岩手県立大学・6 人

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入): 有効回収票数は 116 であった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法: 学生の統計学の現有知識のレベルを踏まえ、本学部において D 科目認定を受けている「統計学 II」の範囲で、平均値の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を主に用いた。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など): 留学に対する関心は、普段からの海外文化への接触 (外国人との接触頻度、国際交流イベントへの関心、趣味で外国語に触れる機会)、外国語の勉強時間との関連が見られなかった。また、将来外国と関わる仕事に就きたいかどうかや、留学の阻害要因も、留学に対する関心と関連が見られなかった。

ただし、留学の阻害要因に関しては、「語学力の不足」「費用がかかる」「海外生活の不安」の要素を挙げる人の留学に対する関心がやや低い傾向が見られた。この結果は、学生に対する語学学習のサポート強化や、留学費用の支援、あるいは留学経験者から話を聞く機会の設定などの手段により、留学を希望する学生の掘り起こしをはかれる可能性を示唆すると考えられる。

10. 報告書刊行の予定と概要: 刊行予定なし

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名 (ふりがな) ほりごめよしひろ 堀籠義裕		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) うさみせいじ 宇佐美誠史		科目設置機関名 岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
授業科目名 社会調査実習	科目認定番号 IWKa-141101-0	受講者数 6人 (実習全体では 18人)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など; テーマ設定から報告書の作成までを全学生が行った。本実習を通じて、調査を企画し、データを集めることの意義について、座学の講義よりも理解が深まったものと思われる。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域: 大学生の結婚に対する意識調査～岩手県立大学総合政策学部3年生を対象として～
2. 調査の内容/概要: 大学生を対象とする先行研究が、男性のみ、あるいは女性のみを対象とするものであること、また男性の子育て・出産についての意識が十分調査されていないため、男女両方を対象とし、男性の子育て・出産の役割も考慮した調査を行った。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入): 男女がほぼ同数の岩手県立大学総合政策学部の学生を対象とした。ただし、1・2年生は将来について深くは考えていないと考えられるため、3年生を対象とした。また、学部3年生全員の調査を行うことが時間の都合上困難であったため、調査実施協力が得られた一部の科目 (社会調査実習、法学実習) の履修者のみを対象とせざるを得なかった。
4. 主な調査項目: 身近な既婚者の有無、身近な既婚者からの影響、結婚に対するイメージ、パートナーの出産後サポートに対する意欲、子育てに対する理想の有無、恋愛ドラマ・漫画に対する嗜好、結婚願望の有無、結婚に対する不安要素

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法: 対象科目の授業終了時に、調査員の学生が質問紙を配布し、その場で回収した。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数: 2014年12月3日および5日・岩手県立大学総合政策学部・6人
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入): 有効回収票数は34であった。学部3年生119人全員の調査を行うことが時間の都合上困難であったため、調査実施期間中での調査協力が得られた一部の科目 (社会調査実習、法学実習) の履修者のみを対象とせざるを得なかった。有効回数票数は必ずしも多くないものの、上記都合もあることから、受講学生には、有効回収票のデータから何が言えるかを考えさせるようにした。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法: 学生の統計学の現有知識のレベルを踏まえ、本学部においてD科目認定を受けている「統計学II」の範囲で、平均値の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を主に用いた。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など): 結婚に関する意識は、その人の将来に対する展望と関連する傾向があることがわかった。一方、身近に既婚者の有無と結婚に対してのイメージは見られないことから、結婚に対する前向きな意識は、本人の周囲の人的環境ではなく、本人自身の出産・子育てに対する意欲と関連するものと考えられる。
10. 報告書刊行の予定と概要: 刊行予定なし

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的に記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ほりごめよしひろ		
堀篁義裕			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	うさみせいじ	岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
宇佐美誠史			
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	IWka-141101-0	6 人 (実習全体では 18 人)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：テーマ設定から報告書の作成までを全学生が行った。本実習を通じて、調査を企画し、データを集めることの意義について、座学の講義よりも理解が深まったものと思われる。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：環境に関する講義を受講している大学生の 3R 意識や行動に関する調査～岩手県立大学を事例に～
2. 調査の内容/概要：先行研究では、環境に関する講義を受講している福岡大学生を対象とする調査が行われており、本調査では、ごみ問題や 3R 配慮行動に関する大学による意識の違いを比較するため、必修科目「環境科学概論」を最近受講した岩手県立大学総合政策学部生を対象に調査を行った。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：「環境科学概論」を最近受講した岩手県立大学総合政策学部生。ただしこの科目は前期の開講であるため、調査実施時期の都合上、同じ 1 年生の必修科目である「政策学基礎」の受講生を対象とした。
4. 主な調査項目：ごみ問題深刻化に対する意識、ごみ問題に対する自分の責任に対する意識、ごみ減量に対する意識、居住形態、ごみ分別に対する意識、環境学習に対する真剣度、環境に関する会話をする頻度、3R の認知度

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：対象科目の授業終了時に、調査員の学生が質問紙を配布し、その場で回収した。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2014 年 12 月 4 日・岩手県立大学総合政策学部・6 人
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：有効回収票数は 121 であり、編入生等をのぞくほぼ全員が有効回収票となった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生の統計学の現有知識のレベルを踏まえ、本学部において D 科目認定を受けている「統計学 II」の範囲で、平均値の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を主に用いた。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：環境学習を真剣に受けた人ほどごみ問題を深刻に捉えている。環境学習を真剣に受けた人、環境学習や環境問題の会話に積極的な人ほどごみ問題に対する自分の責任を自覚している。環境学習を真剣に受けた人、3R の意味を理解している人、詰め替え商品を意識的に利用している人ほどごみ減量に積極的である。などの知見が得られた。
福岡大学と岩手県立大学の間では、岩手県立大学のほうが福岡大学よりも 3R の関する認知度が高いのにも関わらず、3R 配慮行動や 3R 配慮意識では福岡大学のほうが、3R について配慮して生活しているという結果が得られた。岩手県立大学のほうが 3R に関する認知度が高いのは、福岡大学のアンケート調査が平成 21 年 7 月に行われたものであるのに対し、岩手県立大学のアンケート調査は平成 26 年 12 月に行われたものであり、年月が経過したことにより、3R に関する認知度が上がったということが考えられる。福岡大学のほうが、3R について配慮して生活しているという結果に関しては、公害や大気汚染があったため、環境問題の解決に積極的であると考えられる。
10. 報告書刊行の予定と概要：刊行予定なし

< 記入上の注意点 > 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて (3 つのテーマを立てて実施した場合は合計 3 枚に渡って) ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(/*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3 枚中の 1 枚目なら 1/3 とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1 テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。